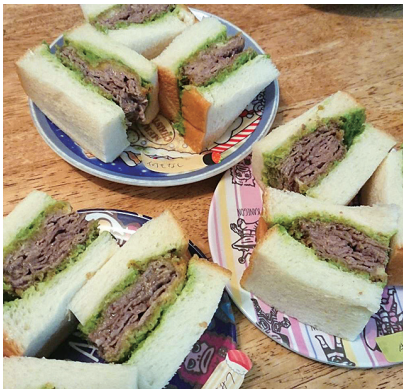




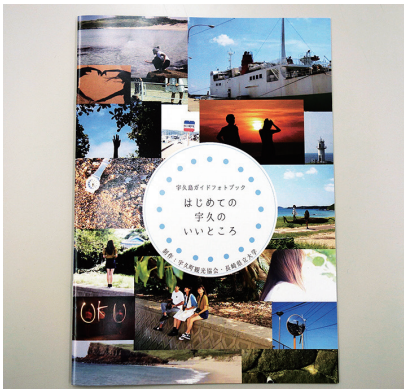
的山大島／野外映画祭を開催

現地のNPO法人与自然で、野外映画祭を開催し、地域住民の交流の場を提供。進学・就職等で3月に島を離れる人も多いため、見送る人・見送られる人にとって思い出づくりの機会にもなった。



沓岐／地元特産品による商品開発

地元特産品を用いた観光客向け商品を企画。地元ベーカリーと協働して沓岐牛を使ったサンドウィッチの商品化を目指す。2018年度は沓岐のフードフェスでの実験販売や販売店舗の交渉も行う予定。



宇久／ガイドフォトブックの制作

「形に残るものを作ってほしい」との要望のもと、地元観光協会と連携し、しまの魅力を発信するガイドフォトブックを制作。事前に考えた観光コースに沿って撮影を行い、写真を通してしまの魅力を発信。



フィールドワークの事前準備

グループワークでフィールドワークのテーマを検討。「しま」の人に聞いた情報をもとにフィールドワークで行いたいことを各自が付箋に書き出し、グループ討議で意見交換しながら、方向性を決定する。



専用の学習支援システムを活用

学生・教員が双方向でコミュニケーションをとるため、スマートフォンからもアクセス可能な専用システムを構築。講義科目・演習科目の単元ごとに報告・課題提供等を行えるようプログラムされている。



総括シンポジウムで成果発表

選抜グループによる成果発表は実習先の7島にも同時配信。オンラインで大学と島をつなぎディスカッションも行った。他島での取組状況を相互に知ることができ、島同士の情報交換にもつながった。

「しま」と向き合う長崎ならではの学び方 「しまなび」プログラムで地域創生に貢献する



「しまなび」プログラムは1年次または2年次の全学生必修科目。10人ほどのグループを編成し、事前調査と4泊5日のフィールドワークを行う



太田 博道 氏
長崎県立大学 学長

新潟県出身。慶應義塾大学理工学部教授を経て、2009年長崎県公立大学法人理事長就任。2011年より現職。

地域と協働して長崎の離島が抱える諸問題の解決に取り組む「長崎のしまに学ぶ」事業で、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択された長崎県立大学。国内で最も多くの島がある長崎県の地理的特徴を活かした「しまなび」プログラムの成果と今後の展望について、太田博道学長に話を伺った。

「しま」で学ぶ理由

「しまなび」プログラムは、長崎の離島（対馬、沓岐、五島、新上五島、小値賀、宇久、的山大島）の魅力や課題を探り、地域創生に貢献するための取組。学生はグループ単位で現地でフィールドワーク（現地調査）を行い、地域の課題を見つけ、その解決策を提案する。プログラム導入の背景について太田学長は次のように語る。

「地方創生が叫ばれる中、大学は地域で中心的な役割を期待されるようになってきました。そこで、従来の知識伝播型の教育を行うだけでなく、学生の思考力、判断力、行動力で地域の役に立てることはないかと考え、このプログラムを全学生必修科目にしたのです」。

地域と大学が協働

これまでの3年間で地域活性化に向けたさまざまな取組がなされてきた。「かんころ餅の包装紙を学生のデザインに変えたら売れ行きがよくなったという話（五島）」や、特産品を使った観光物産の企画が進んでいる事例（沓岐）もあり、「しま」に貢献できている手応えも感じています。また、学生は活動を通して『積極的になった、協調性が身についた、人前で話ができるようになった』など、社会人基礎力の向上も実感しているようです。個々の成長を促し、自信をもつて語れる経験となっているのはいいことだと思います。教員においても、導入当初こそ不安視する声も聞かれましたが、普段の授業でもアクティブラーニングの活用や学生との双方向のやりとりを心がけてくれるようになり、学びの環境の変化を感じています」。

を提供するのも大学の役割。本学でも実践的なカリキュラムを重視しています。地域創造学部では佐世保市内の民間企業や公共機関での長期インターンシップを必修化。今年度から本格実施となりますが、参加企業は50社にのびります。学生にとっては知らない業種、企業と出会えるし、企業にとっては優秀な人材を地元に残す留めることにもつながる、双方にメリットがある取組です。『地域や企業を自分の力で変化させる』。そんな経験をした学生が、大企業より地域の企業を選んだほうが活躍の場があると気づき、地域の企業を選び、地域の発展に貢献してくれることを期待しています」。

地域創生人材の育て方

COC事業は2017年度に終了したが、同大では今後も「しまなび」プログラムの全学必修を継続。これまでシステムに蓄積されたデータを活用し、地域が抱える課題に今まで以上に対応するなど活動を深化させていく考えだ。また、学生により一層主体的な活動を促すため、フィールドワークを経験した上級生に下級生のファシリテーターを任せるなど、新たな仕組みづくりも始まっている。



長崎県立大学

〒858-8580 長崎県佐世保市川下町123（本部）
TEL：0956-47-2191（代表）
http://sun.ac.jp/
経営学部、地域創造学部、国際社会学部、情報システム学部、看護栄養学部
創立：2008（平成20）年
学生数：2977名（2018年5月）